

健康・医療・介護・福祉ニュース

◆最新の健康・医療・介護・福祉などに関するニュースを集めて紹介します。

独立行政法人国立病院機構
奈良医療センター

てんかんセンター

星田 徹院長

奈良市七条2千目の独立行政法人国立病院機構・奈良医療センター(星田徹院長)は、平成22(2010)年8月に、院内に「てんかんセンター」を立ち上げ、「てんかん包括医療」を目標してきた。その5年間の歩みと今後の方向性について、星田院長に話を聞いた。

インタビュー

■てんかんとは何か

「脳の電気信号が乱れて神経細胞の過剰な電気放電によって起きる」のがてんかん発作で繰り返して起こるのが特徴。脳に何らかの障害があ

って起こる「症候性」と、原因不明の「特発性」があり、その割合は約半々で、発症率は100人中0.5~1人。乳幼児から高齢者まで幅広く発病するが、3歳以下が多く、最も多い高齢者になると

脳血管障害が原因となる発病が増える。また「発作は怖い、遭伝する、うつる、治らない」と偏見を持たれているが、最近話題の高齢者の治療見直しはよい。う

地域医療と連携

専門員養成も急務

数に延べ5000人を超えた。診療は外来での診察・治療が主体。小児神経科と脳神経外科の医師、それに専門の知識と技術を身につけた看護師・薬剤師・脳波技師・放射線

技術・臨床心理士・コーディネーターらがチームを組んで、患者およびその家族に対応している。

てんかんセンター開設から5年が経過して、平成27(2015)年の患者

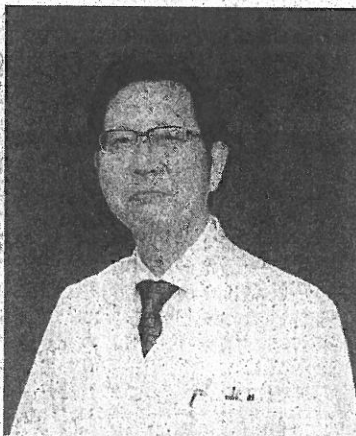
の養成は緊急の課題であり、全国に27のてんかんセンターが設置され、地域の医療機関とのネットワークが作られ、診療体制の向上が図られている。

てんかんは小児期から

■今後の方向性

「診療ネットワーク」

てんかん専門の医師がいる医療機関は非常に少なく、患者の多くは非専門医から投薬を受けているのが現状。専門スタッフ



地域の医療機関とのネットワークをつくり、診療体制の向上を図る必要がある、と語る星田徹院長
11月、国立病院機構・奈良医療センター